



#3

PATENT
ATTORNEY DOCKET NO.: 040894-5766

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of:)
Keijiro MURAYAMA, et al.)
Application No.: 10/092,352) Group Art Unit: 3746
Filed: March 7, 2002) Examiner: Unassigned
For: APPARATUS FOR OUTPUTTING)
COMPRESSED AIR IN COMPRESSOR)

Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

CLAIM FOR PRIORITY

Under the provisions of 35 U.S.C. §119, Applicants' hereby claim the benefit of the filing date of **Japan** Patent Application Nos. 1.) 2001-063830 filed March 7, 2001, 2.) 2001-063831 filed March 7, 2001 for the above-identified United States Patent Application.

In support of Applicants' claim for priority, filed herewith is a certified copy of the Japan application.

Respectfully submitted,

MORGAN, LEWIS & BOCKIUS LLP

Robert J. Goodell
Reg. No. 41,040

Dated: March 6, 2002

MORGAN, LEWIS & BOCKIUS LLP
1111 Pennsylvania Avenue, N.W.
Washington, D.C. 20004
(202)739-3000

RECEIVED
MAY 13 2002
TECHNOLOGY CENTER 3700



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年 3月 7日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-063830

[ST.10/C]:

[JP2001-063830]

出 願 人

Applicant(s):

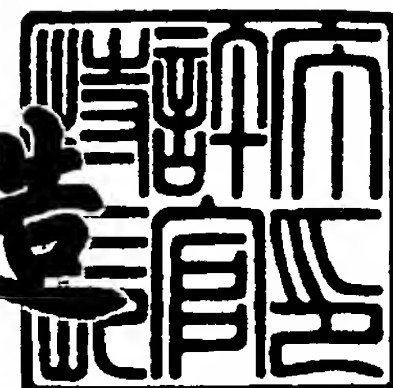
マックス株式会社

RECEIVED
MAY 13 2002
TECHNOLOGY CENTER 3100

2002年 3月15日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2002-3016733

【書類名】 特許願

【整理番号】 PM03803111

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 F04B 41/02

【発明者】

【住所又は居所】 東京都中央区日本橋箱崎町 6 番 6 号 マックス株式会社
内

【氏名】 村山 恵司郎

【発明者】

【住所又は居所】 東京都中央区日本橋箱崎町 6 番 6 号 マックス株式会社
内

【氏名】 村山 勝彦

【発明者】

【住所又は居所】 東京都中央区日本橋箱崎町 6 番 6 号 マックス株式会社
内

【氏名】 花ヶ崎 弘

【発明者】

【住所又は居所】 東京都中央区日本橋箱崎町 6 番 6 号 マックス株式会社
内

【氏名】 蔵口 和彦

【発明者】

【住所又は居所】 東京都中央区日本橋箱崎町 6 番 6 号 マックス株式会社
内

【氏名】 竹村 元

【特許出願人】

【識別番号】 000006301

【氏名又は名称】 マックス株式会社

【代理人】

【識別番号】 100074918

【弁理士】

【氏名又は名称】 瀬川 幹夫

【電話番号】 03(3865)8347

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 054449

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9006047

【プールの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 圧縮機の圧縮空気取り出し装置

【特許請求の範囲】

【請求項1】 高圧の圧縮空気を貯める空気タンクと、前記タンクに取り付けられ、高圧から常圧の領域の圧力値を任意に調整可能な減圧弁と、前記減圧弁の二次側に接続した高圧専用のソケットと、前記減圧弁の二次側に開閉弁を介して接続した常圧専用のソケットと、前記減圧弁の二次側調整圧力が所定圧力値を超えたとき前記開閉弁を閉じるように制御する開閉弁制御装置とを備えたことを特徴とする圧縮機の圧縮空気取り出し装置。

【請求項2】 前記空気タンクには、前記減圧弁と高圧及び常圧専用ソケットと開閉弁制御装置とを備えた複数のユニットを設置した、請求項1記載の圧縮機の圧縮空気取り出し装置。

【請求項3】 高圧の圧縮空気を貯める空気タンクに、高圧から常圧の領域の圧力値を任意に調整可能な減圧弁を取り付け、該減圧弁の二次側に接続したソケットに常圧工具と高圧工具のプラグを装着可能とし、前記ソケットには、前記空気タンクから供給された圧縮空気の圧力に応じてプラグ側に連通した通路を開閉する開閉弁を設け、該開閉弁を常圧工具の使用限界圧力を超えたときに閉鎖作動するようにしたことを特徴とする圧縮機の圧縮空気取り出し装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、圧縮空気で駆動する工具に圧縮空気を供給する圧縮機の圧縮空気を取り出す圧縮空気取り出し装置に関する。

【0002】

【従来技術】

圧縮空気で駆動する工具に圧縮空気を供給する一般的な可搬型の空気圧縮機では、モータにより駆動される圧縮部で生成される、例えば $10 \sim 30 \text{ kg/cm}^2$ の圧力の圧縮空気をタンクに貯め、この圧縮空気をタンクに取り付けた減圧弁により工具で使用する圧力に調整して迅速継ぎ手等の接続手段を介して工具側に供

給する。

【0003】

圧縮空気工具として 10 kg/cm^2 以下の圧力で使用する一般に知られている常圧工具と、例えば工具を小型化にしたり高い能力の作業をさせるために 10 kg/cm^2 以上の高い圧力で使用する高圧工具がある。これらの常圧工具と高圧工具とを1つの圧縮機で使用できるようにするため、 30 kg/cm^2 以上の高圧の圧縮空気をタンクに貯め、該タンクに常圧（低圧）専用の減圧弁と高圧専用の減圧弁を取付け、それぞれの減圧弁に常圧工具専用と高圧工具専用の継ぎ手のソケットを接続して、各工具にそれぞれ調整された圧力の圧縮空気を供給できるようにしたものが知られている。そして、これらの2種類の工具が誤接続によって不適切な圧力の圧縮空気が供給されないように、圧縮機のタンクとの接続に互いに互換性のない流体継ぎ手を使用され、また圧縮機のタンクに取り付ける減圧弁も、常圧工具に誤って高い圧力の圧縮空気が供給できないように、高圧用と常圧用の減圧弁は取り出し最高圧力の異なるものが使用されている。また、常圧専用の減圧弁は常圧工具で使用する圧力範囲の上限を越えないように取り出し最高圧力が限定されている。

【0004】

上記圧縮機によれば、高圧工具も常圧工具もどちらでも使用可能であり、更に両工具を各1台ずつ同時に使用することも可能であり、それぞれ専用の互いに互換性のないソケットを介して接続するようにしているため、誤接続が無くなり、低圧工具の破損や高圧工具の能力低下といった現象を防止することができる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら上記の圧縮機で常圧又は高圧何れかの工具を2台使用するには、各専用の減圧弁とソケットのユニットを増設するか、または常圧又は高圧用の減圧弁にソケットを並列に複数個取り付ける必要がある。前者の場合、高圧と常圧の工具を各2台同時に使用する場合には高圧用と常圧用の減圧弁を各2個ずつ合計4個の減圧弁を設置する必要がある。また、後者の場合には、減圧弁は各1個ずつの2個でよいが、常圧又は高圧で使用する2つの工具への供給圧力が同一と

なり、工具毎に異なった圧力で作業する場合、例えば、1台の釘打機で内壁施工等の低圧でできる作業を行ない、他方の釘打機で柱や土台等の躯体に対して比較的大きな打ち込み力を必要とする作業を行なう場合のように、同じ低圧工具でもそれぞれの作業に適した調整圧力を設定して使用することはできない。

【0006】

本発明は上記問題点を解消し、取り付ける減圧弁の数を少なくして、高圧と常圧の1台ずつの工具の同時使用が可能であり、しかも常圧又は高圧の工具を2台同時に使用することが可能な圧縮機の圧縮空気取り出し装置を提供することを課題とするものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】

前記課題を解決するため、本発明に係る圧縮機の圧縮空気取り出し装置は、高圧の圧縮空気を貯める空気タンクと、前記タンクに取り付けられ、高圧から常圧の領域の圧力値を任意に調整可能な減圧弁と、前記減圧弁の二次側に接続した高圧専用のソケットと、前記減圧弁の二次側に開閉弁を介して接続した常圧専用のソケットと、前記減圧弁の二次側調整圧力が所定圧力値を超えたとき前記開閉弁を閉じるように制御する開閉弁制御装置とを備えたことを特徴とする。

【0008】

なお、前記空気タンクには、前記減圧弁と高圧及び常圧専用ソケットと開閉弁制御装置とを備えた複数のユニットを設置するのが好ましい。

【0009】

本発明に係る圧縮機の圧縮空気取り出し装置は、また、高圧の圧縮空気を貯める空気タンクに、高圧から常圧の領域の圧力値を任意に調整可能な減圧弁を取り付け、該減圧弁の二次側に接続したソケットに常圧工具と高圧工具のプラグを装着可能とし、前記ソケットには、前記空気タンクから供給された圧縮空気の圧力に応じてプラグ側に連通した通路を開閉する開閉弁を設け、該開閉弁を常圧工具の使用限界圧力を超えたときに閉鎖作動するように構成してもよい。

【0010】

【発明の実施の形態】

図 1 は圧縮機の圧縮空気取り出し装置の概要を示すもので、この圧縮空気取り出し装置は、圧縮機 1 に連結された高圧の圧縮空気を貯める空気タンク 2 と、空気タンク 2 に取り付けられた減圧弁 3 と、減圧弁 3 の二次側に接続した高圧専用のソケット 4 a と、減圧弁 3 の二次側に開閉弁 5 を介して接続した常圧（低圧）専用のソケット 4 b と、上記開閉弁 5 の開閉を制御する開閉弁制御装置 6 とから構成されている。

【 0 0 1 1 】

タンク 2 には、例えば高圧圧縮機 1 により生成される 30 kg/cm^2 を越える高圧の圧縮空気が貯留されるものとし、減圧弁 3 はタンク 2 に取り付けられ、二次側圧力値が $30 \sim 0 \text{ kg/cm}^2$ まで任意に調整可能なタイプのもので、常圧から高圧の圧力範囲の全ての領域で調整された圧縮空気を減圧して二次側に出力することができるようにする。

【 0 0 1 2 】

高圧専用のソケット 4 a と常圧専用のソケット 4 b とは、それぞれ高圧工具 7 a と常圧工具 7 b に誤接続されるのを防止するため、互いに互換性の無い形状に形成されている。

【 0 0 1 3 】

次に、減圧弁 3 の二次側に接続される開閉弁 5 は、3 ポート電磁弁である。減圧弁 3 と電磁弁 3 との間には減圧弁 3 の二次側調整圧力を検出する圧力センサ 8 が設けられている。そして、上記開閉弁 5 は減圧弁 3 の二次側圧力の圧縮空気を常圧専用のソケット 4 b へ接続し又は遮断するように構成されている。

【 0 0 1 4 】

開閉弁制御装置 6 は、二次側圧力を検出する圧力センサ 8 の検出値によって前記開閉弁 5 を開閉制御する電磁弁駆動回路で、センサ 8 により減圧弁 3 の二次側圧力が常圧の範囲における所定圧力値、例えば 10 kg/cm^2 を超えたときに図 2 に示すように開閉弁 5 を閉じ作動させる。

【 0 0 1 5 】

上記構成の圧縮空気取り出し装置によれば、減圧弁 3 は常圧から高圧の圧力範囲の全ての領域で調整された圧縮空気を減圧して二次側に出力し、減圧弁 3 の二

次側には高圧専用のソケット 4 a と常圧専用のソケット 4 b とが取り付けられ、高圧専用のソケット 4 a には高圧工具 7 a のプラグ 9 a を接続し、常圧専用のソケット 4 b には常圧工具 7 b のプラグ 9 b を接続して使用するから、常圧用と高圧用とに使用することができる。

【0016】

また、開閉弁制御装置 6 により常圧工具 7 b のプラグ 9 b には開閉弁 5 を介して限界圧力以下の圧縮空気のみが供給できるようにしているので、常圧工具 7 b には適正圧力以上の圧縮空気が供給されない。このため、工具や接続ホースの破損を防止することができる。

【0017】

次に、図 3 は上記前記減圧弁 3 と高圧及び常圧専用ソケット 4 a、4 b と開閉弁制御装置 6 とを備えたユニット A、B を 2 基、タンク 2 に設置した例である。この場合は、各ユニット A、B に高圧又は常圧の工具 7 a 又は 7 b を 1 つ接続できるので、それぞれのユニット A、B につき高圧工具 7 a と常圧工具 7 b を各 1 台ずつ同時に使用することができる。

【0018】

また、各ユニット A、B にそれぞれ高圧工具 7 a と常圧工具 7 b を接続できるようにすれば、常圧 2 台又は高圧 2 台が同時に使用可能である。しかも、常圧又は高圧 2 台の各々の使用圧力が調整でき、工具の作業に適した圧力の圧縮空気を取り出すことができる。

【0019】

さらに、上記構成によれば、高価な減圧弁は共通の減圧弁を 2 つ使用するだけで済み、簡単な開閉弁 5 とその制御装置を追加するのみで低コストで且つ使い勝手の良い圧縮機 1 を提供することができる。

【0020】

次に、図 4 は圧縮機の圧縮空気取り出し装置の他の例を示すもので、この例においては減圧弁 3 の二次側圧力に応答して圧縮空気の通路を開閉する開閉弁 5 を設けたソケット 4 が取り付けられている。さらに、ソケット 4 は図 5 (a) (b) に示されるように、高圧工具 7 a と常圧工具 7 b のプラグ 9 a、9 b のどちらも装

着可能に形成され、前記開閉弁 5 が常圧工具 7 b のプラグ 9 b が装着された場合にのみ閉じ作動するように構成されている。

【0021】

すなわち、同図において、ソケット 4 は常圧工具 7 b のプラグ 9 b と高圧工具 7 a のプラグ 9 a に共通で、ソケット 4 内には遮断弁体 10 が摺動自在に配置されている。遮断弁体 10 は有底筒状に形成され、ソケット 4 の開放側に開口している。遮断弁体 10 の閉じ側の側面には開口部 11 が貫通形成され、この開口部 11 は摺動時にソケット 4 の内壁に突出形成されたシール部 12 に当接離間可能に構成されている。後述のように、遮断弁体 10 の作動により、空気タンク 2 から供給された圧縮空気の圧力に応じてプラグ側に連通した通路が開閉される。

【0022】

これに対し、常圧工具 7 b のプラグ 9 b と高圧工具 7 a のプラグ 9 a のソケット 4 に対する装着部の形状、寸法は同一に構成されているが、前記遮断弁体 10 と係合する部分の位置寸法が異なって構成されている。つまり、図 5 (a) のように常圧工具 7 b のプラグ 9 b の先端は遮断弁体 10 の内径よりも大きく、これに対し同図 (b) のように高圧工具 7 a のプラグ 9 a の先端は遮断弁体 10 の内径よりも小さく形成されている。なお、遮断弁体 10 はバネ 13 によって常時ソケット 4 の開放側の移動端に移動するように付勢されている。

【0023】

さらに、上記ソケット 4 内には、バネ力で付勢された環状の開閉弁 5 が配置されている。開閉弁 5 には圧縮機 1 から減圧弁 3 を介してソケット 4 内に供給される圧縮空気を受ける受圧面 a、b が形成されており、所定圧力以上のエアがこの受圧面 a、b に作用することによりバネ 13 のバネ力に抗して移動されるようにされている。このとき、開閉弁 5 は、前記遮断弁体 10 の先端部の周囲に設けられたシール部 12 と係合可能に配置されている。

【0024】

上記構成において、図 5 (a) (b) に示すように、ソケット 4 には常圧プラグ 9 b も高圧プラグ 9 a も接続することができ、接続によってソケット 4 が開くから、減圧弁 3 からソケット 4 を経て遮断弁体 10 の開口部 11 から圧縮空気を上記

各プラグに取り出すことができる。なお、常圧用のプラグ 9 b の先端は遮断弁体 1 0 の内径よりも大きいから、上記プラグ 9 b の先端は遮断弁体 1 0 の後端に係合したまま遮断弁体 1 0 を押し込む。しかし、高圧用のプラグ 9 a の先端は遮断弁体 1 0 の内側に入り込んだ状態で遮断弁体 1 0 を押し込むことになる。このため、ソケット 4 に接続したときの遮断弁体 1 0 の押し込み量は、常圧用のプラグ 7 b の方が高圧用のプラグ 7 a よりも大きい。

【 0 0 2 5 】

ところが、常圧プラグ 9 b を接続したときは、減圧弁 3 からの圧縮空気のエア圧が所定圧力（常圧工具の使用限界圧力）以上になると、同図(c) のように開閉弁 5 の受圧面 a の面積の方が受圧面 b の面積よりも緒大きいので、バネ 1 4 のバネ力に抗して作動し、遮断弁体 1 0 の先端部の周囲に設けられたシール部と係合する。このため、プラグ 9 b 側へのエア流は閉鎖される。したがって、常圧用の工具へ限界圧以上の圧力が供給されることはない。

【 0 0 2 6 】

これに対し、高圧プラグ 9 a が装着されたときも開閉弁 5 は高い供給圧力にตอบสนองしてバネ力に抗して移動するが、この場合の遮断弁体 1 0 の移動量は小さいため、遮断弁体 1 0 と係合しない。したがって、圧縮空気の通路は閉鎖されず、高圧工具には常圧から高圧の全領域で圧縮空気が流動する。

【 0 0 2 7 】

上述の構成によれば、圧力検出用のセンサや電磁弁等を使用しない構成で、常圧用工具に対して限界圧以上の圧縮空気の供給を停止できる。また、この構成により、ソケット 4 を高圧用、常圧用に共通の構造にすることができ、圧縮機 1 に設置するソケット 4 の数を減らしてコストを低減させることが可能であり、プラグの装着時にソケット 4 を選択する煩わしさを解消することができる。

【 0 0 2 8 】

また、上記構成の圧縮空気取り出し装置の図 1 に示したような圧力検出用のセンサや上記開閉弁 5 を作動させる制御装置を付加すれば、センサの検出圧力を変えることによって常圧工具の駆動圧力を変えることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

圧縮機の圧縮空気取り出し装置の概要を示すブロック図

【図 2】

上記圧縮空気取り出し装置の開閉弁の作動態様説明図

【図 3】

圧縮機の圧縮空気取り出し装置の他の例の概要を示すブロック図

【図 4】

圧縮機の圧縮空気取り出し装置の別の例の概要図

【図 5】

(a) (b) はそれぞれ高圧工具と常圧工具を接続した場合の作動態様説明図、(c)
) は常圧工具を接続した場合の作動態様説明図

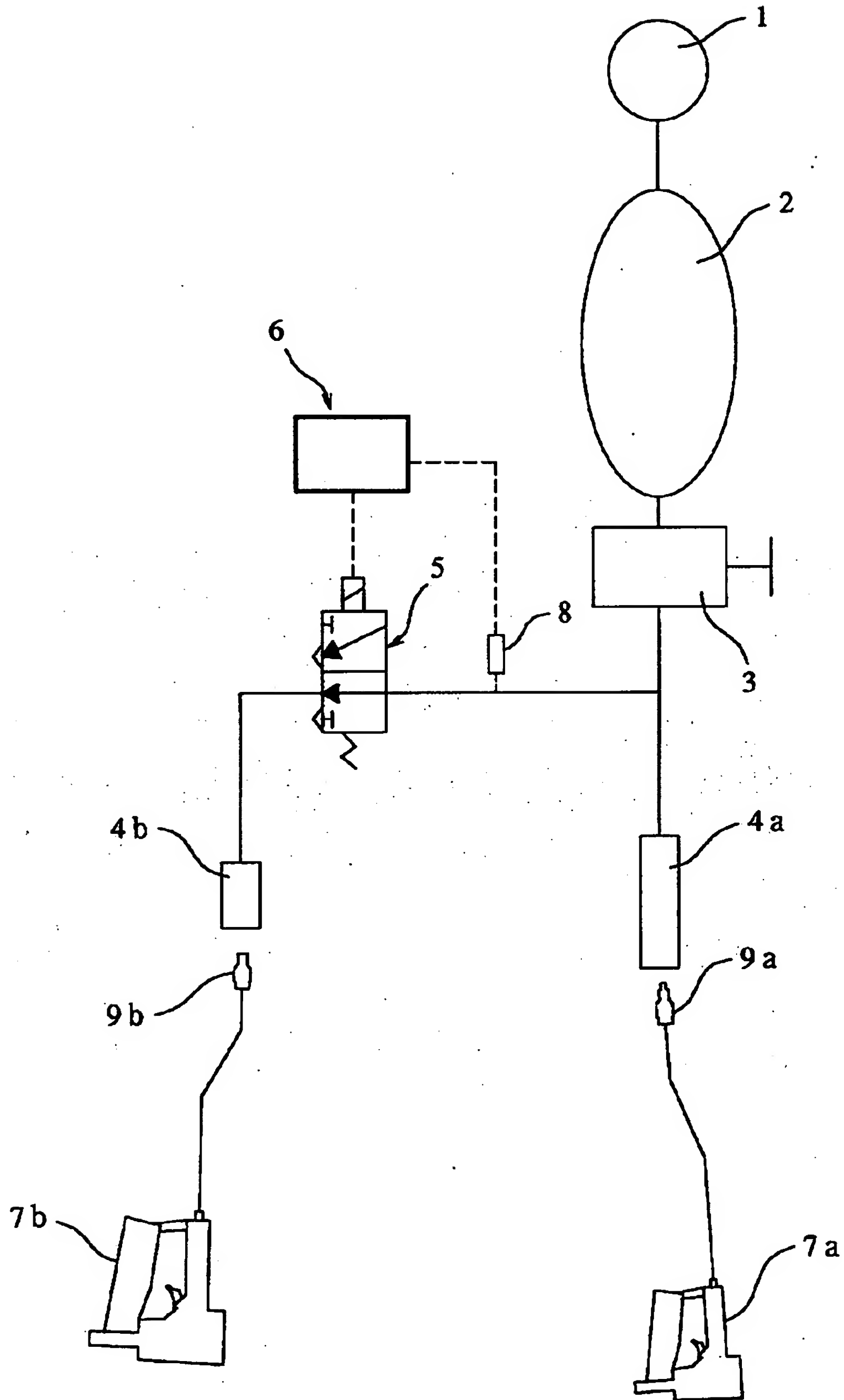
【符号の説明】

- 2 空気タンク
- 3 減圧弁
- 4、4 a、4 b ソケット
- 5 開閉弁
- 6 開閉弁制御装置

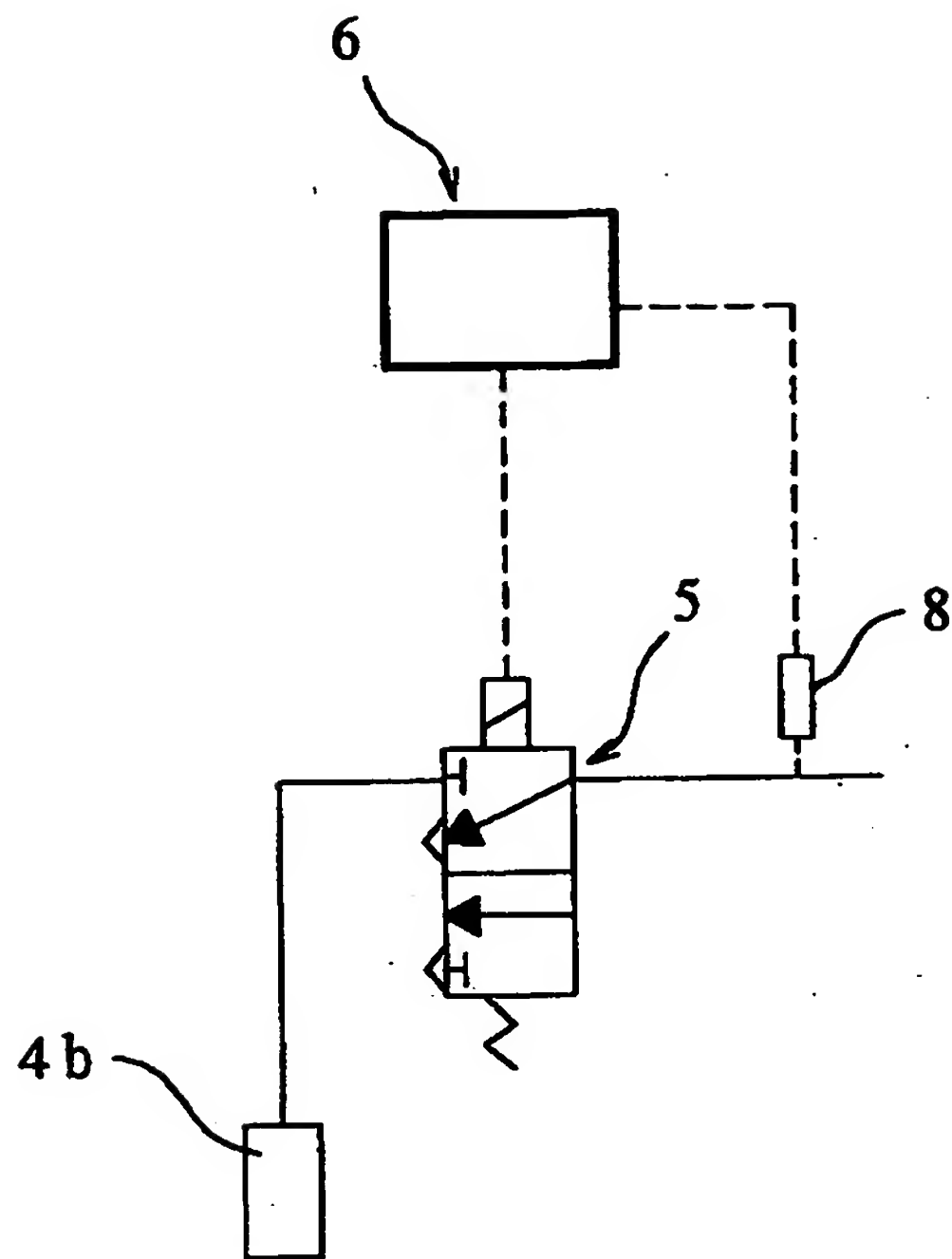
【書類名】

図面

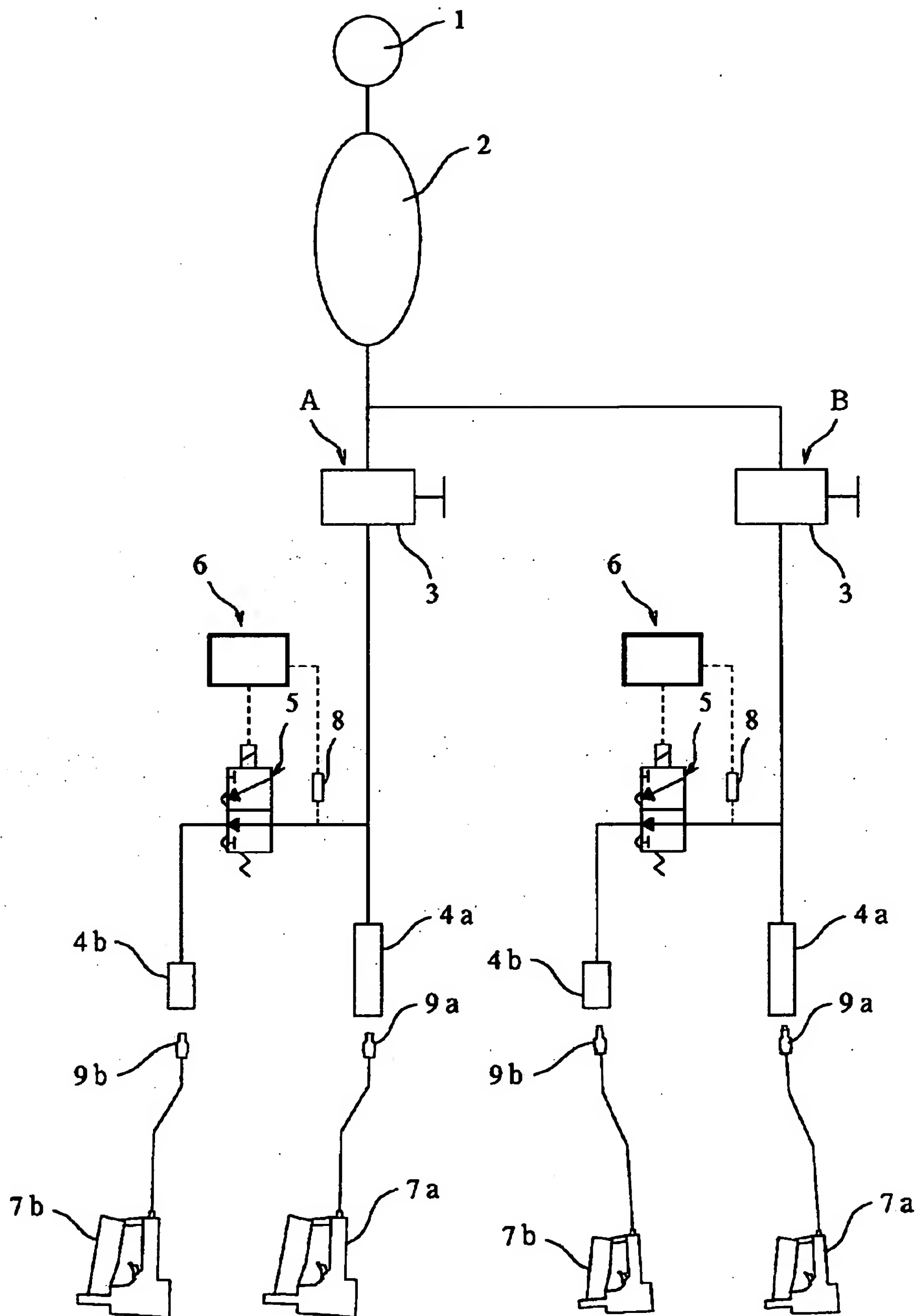
【図1】



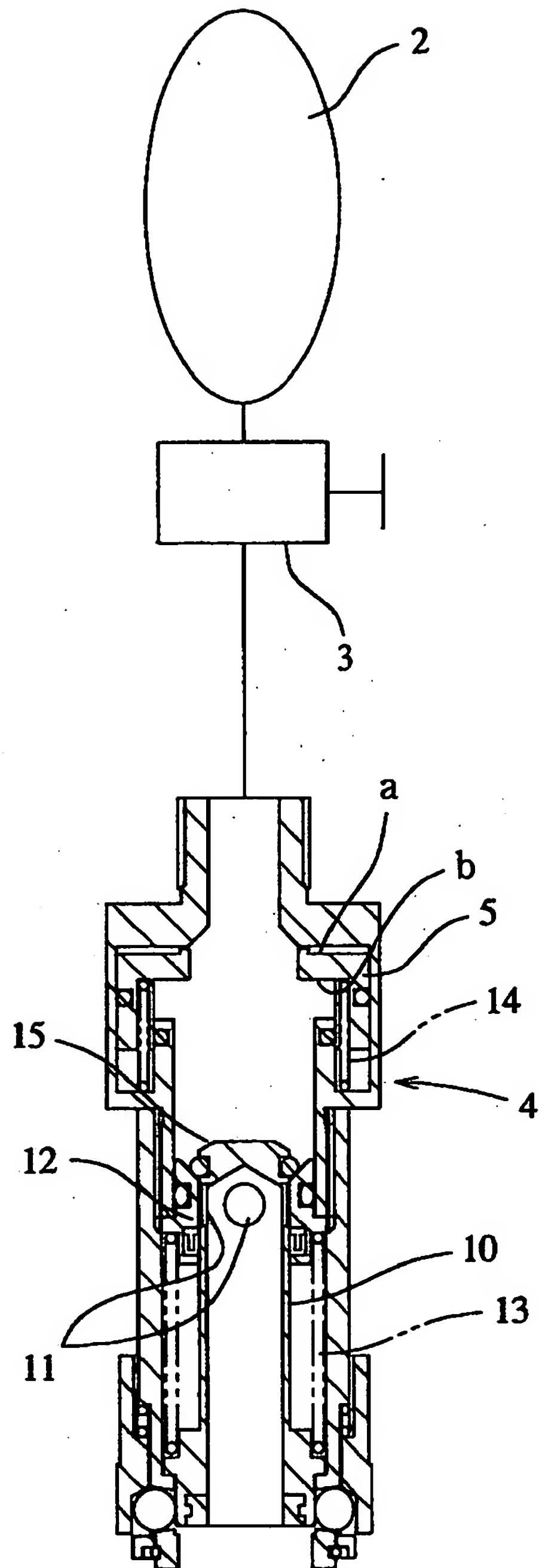
【図2】



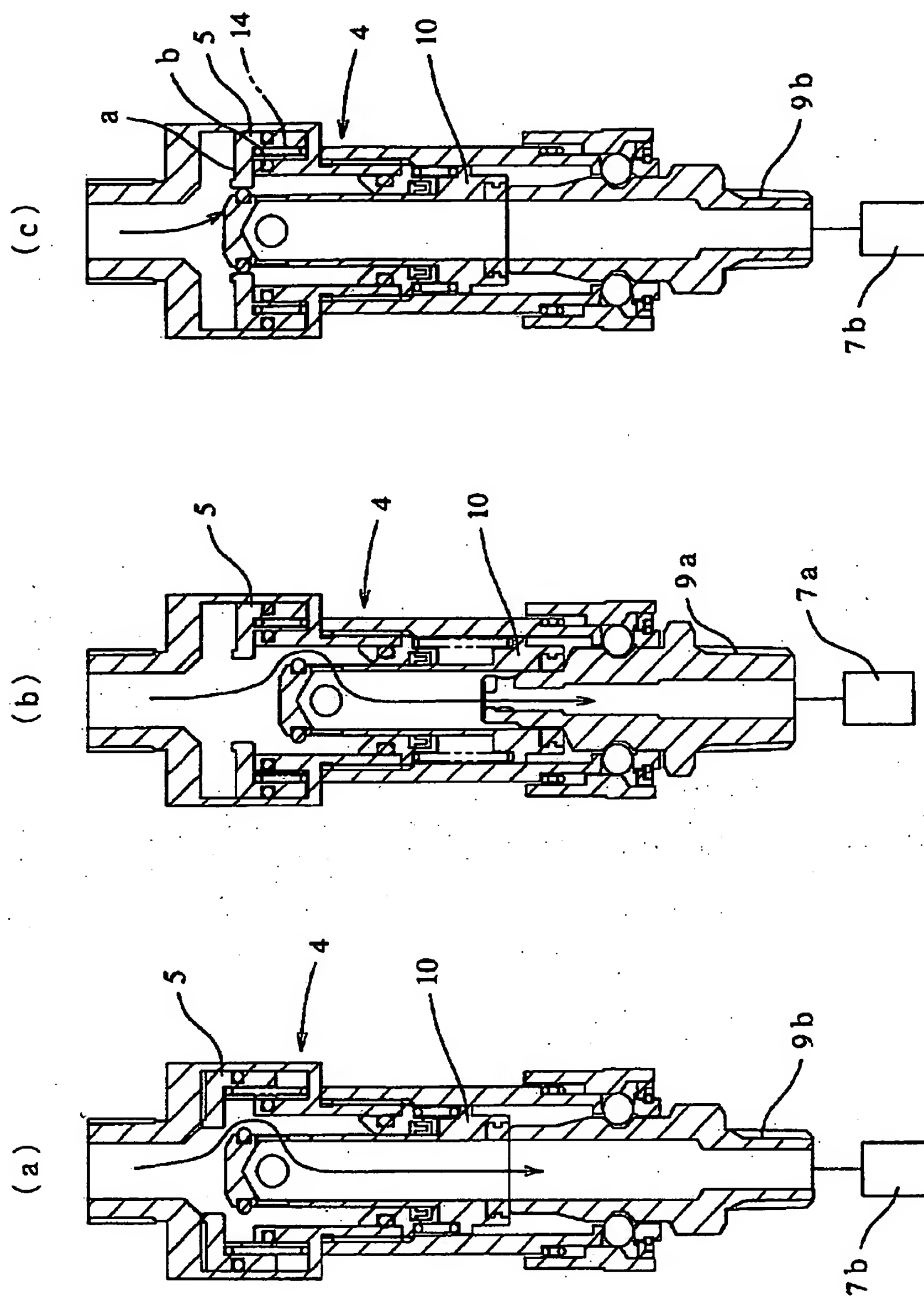
【図3】



【図4】



【図5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 取り付ける減圧弁の数を少なくして、高圧と常圧の1台ずつの工具の同時使用が可能であり、しかも常圧又は高圧の工具を2台同時に使用することが可能な圧縮機の圧縮空気取り出し装置の提供。

【解決手段】 高圧の圧縮空気を貯める空気タンクと、前記タンクに取り付けられ、高圧から常圧の領域の圧力値を任意に調整可能な減圧弁と、前記減圧弁の二次側に接続した高圧専用のソケットと、前記減圧弁の二次側に開閉弁を介して接続した常圧専用のソケットと、前記減圧弁の二次側調整圧力が所定圧力値を超えたとき前記開閉弁を閉じるように制御する開閉弁制御装置とを備えた。

【選択図】 図 1

特2001-063830

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2001-063830
受付番号	50100323245
書類名	特許願
担当官	第三担当上席 0092
作成日	平成13年 3月 9日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成13年 3月 7日
-------	-------------

次頁無

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000006301]

1. 変更年月日 1990年 8月27日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都中央区日本橋箱崎町6番6号

氏 名 マックス株式会社